【 86 】

氏名	脇　口　　宏
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第 1241 号
学位授与の日付	昭和56年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	麻疹ウイルス感染細胞に対するAntibody Dependent Cell-Mediated Cytotoxicity（ADCC）に関する研究 第1編　麻疹未罹患児及び麻疹患者におけるLymphocyte Dependent Antibody と麻疹患者の効果細胞機能 第2編　Lymphocyte Dependent Antibody と各種麻疹抗体との相関及びガンマグロブリン製剤のADCCに与える影響
論文審査委員	教授　新居志郎　教授　矢部芳郎　教授　金政泰弘

学位論文内容の要旨

麻疹ウイルス感染に対する防禦機転におけるantiboby dependent cell-mediated cytotoxicity（ADCC）の生物学的意義を検討する目的で，麻疹未罹患乳幼児と麻疹患者の血清についてＡＤＣＣに関与するリンパ球依存性（ＬＤ）抗体と効果細胞機能との推移を検索し，ＬＤ抗体と麻疹中和（ＮＴ）抗体，補体結合（ＣＦ）抗体との相関の有無を検討した。また，麻疹の発症予防に使用されている各種ガンマグロブリン製剤の作用機序におけるＬＤ抗体の関与についても検索した。

麻疹未罹患乳幼児血清には母体由来の麻疹に対するＬＤ抗体が存在し，その抗体価は生後6カ月以後，次第に低下するが，生後1年以後においてもＬＤ抗体が存続している例がみられた。麻疹患者のＬＤ抗体価は発疹出現後，2日頃より急激に上昇し発疹出現後4日以後では全例が高いＬＤ抗体値を獲得した。麻疹患者の効果細胞機能は発疹出現後6日まで抑制されていたが，それ以後次第に回復した。以上のことにより麻疹感染に対するＡＤＣＣは麻疹未罹患児では感染予防に，麻疹患者ではウィルス除去に重要な役割を果していると考えられた。

麻疹患者では，ＬＤ抗体とＮＴ抗体とは麻疹感染早期にほとんど同時に出現し，比較的

長期間にわたり存続するが，両抗体間に相関はみられなかった。またＬＤ抗体とＣＦ抗体とは異った抗体であることが確認された。各種ガンマグロブリン製剤のうちＦＣ部分が切断されていない製剤の投与例においてのみＬＤ抗体が獲得され，またＮＴ抗体の上昇がみられなかった例においても，ＬＤ抗体の上昇が認められ，ガンマグロブリン製剤の麻疹発症予防効果にＡＤＣＣが強く関与していることを明らかにした。

論文審査の結果の要旨

本研究は麻疹ウイルス感染における antibody dependent cell-mediated cytotoxicity（ＡＤＣＣ）の意義について検討し，これが麻疹の感染予防ならびに回復機転に重要な役割を果していることを明らかにしたものであり，価値ある業績と考える。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。